

田中三津彦議員



● 恐竜を目玉とする観光施策推進の必要性について  
● 時間外手当の予算計上と執行の在り方について

そのほかの質問

- ・中部縦貫自動車道県内全通への備えについて
- ・県内景気の回復継続と人手不足への対応について
- ・初の弾道ミサイル対応訓練実施の教訓と今後について

一般質問

勝山の魅力は色々あるが、恐竜博物館に来られる観光客にとつて恐竜は他に無い唯一の存在であり、恐竜の世界を楽しむために来られる。その方々にとつてはディズニーリゾートやUSJのような聖地だ。

だが、勝山市は観光客の期待に十分応えきれないという声も聞く。そんな批判を封じるためにも、もっと大胆に恐竜を目玉とする施策を打つべきだと思うが如何か。

これまで、アクセス道路、博物館の入場半券による割引サービス、チャマゴンの活用等、私は様々な提案をしてきた。

**問** 勝山市は増加する来場者対策として、公園整備に取り組んできたほか、長尾山では恐竜化石発掘体験、恐竜クロカンマラソンなどを実施している。

またなかでは、複数体の恐竜ミニチュメントや恐竜マンホールの蓋、サンプラザなどの壁面の恐竜、勝山市全域が恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークに認定され、近年ではDINOSAUR IVYの開催及びディノパークの開設など魅力アップに取り組んでいる。

**問** 今後もジオターミナルの駅を着々と整備して、県立恐竜博物館を、ひいては福井県を盛り上げていく。

**問** 市職員の時間外手当は毎年、年度当初に約5千万円（職員給与額の5.5%）計上され、12月に約2千万円が補正で予算化されているが、当初に年度の所要額を計上すべきだ。

後から多額の予算が補充されるのでは、職員に仕事を効率化して残業を減らす節約意識も根付きにくい。

**答** 現在の予算計上と執行の在り方は、予算の基本原則と多少かい離がある。

この状態が続くことは好ましくないため、今一度厳しい財政状況や納税者の視点に立ち返り、一層の事務の効率化を図り、働き方改革の先頭に立ち、時間外勤務の削減に取り組んでいく。

そのうえで年度を通じた真に必要な時間外勤務手当を当初予算で計上することについて、検討していきたい。

帰山寿憲議員



● 恐竜博物館について  
勝山市としての第2恐竜博物館の必要性について  
これからの展開について

一般質問

勝山商工会議所を中心にして平成28年6月に設立された勝山市観光まちづくり株式会社は、観光地経営の視点に立って、勝山市の観光を一体的にマネジメントし、観光客や宿泊者の増加、観光消費額の増加による観光の産業化を目指している。

現在の恐竜博物館の隣接地、近接地における第2恐竜博物館建設は、こ

**問** 長尾山総合公園への建設を要望してきたが、市としての必要性を伺う。

**答** 現在、勝山市には年間200万人余の観光客が訪れているが、さらに第2恐竜博物館が建設されることで、高速交通網の整備を追い風に、これまで以上の観光誘客拡大を期待している。

観光客へのおもてなし向上に向けて店舗改修に取り組んで頂いた飲食店も多い。外装のリフレッシュに加えウェイティングコーナーの設置やトイレの洋式化、分煙化など観光客目線に立った改修が行われており、ファミリ層をターゲットとするメニューを増やしている。

**問** 今後の市としての交通アクセス、インフラ整備、PR等の課題への対応、施設活用の展開方針を伺う。

**答** 来年4月にオープンするジオターミナルでは、観光案内業務はもとより、繁忙期における市内飲食店の紹介あるいは昼食予約業務を実施することにより、効率よく市内へ観光客を誘導したい。

また、恐竜博物館へ車で来られる観光客に対する市内観光地および県内一円の観光案内を行い、福井県全体の観光コンシェルジュ機能を果たすことで、地域経済の発展を目指す。

さらには、ジオターミナル及び道の駅を中心に販売する恐竜をモチーフとした土産物開発や勝山市観光まちづくり株式会社による着地型観光ツアーの造成など、観光の産業化に向けた施策を実施していく必要がある。